

# 人參養榮湯の長期服用による効果

医療法人誠心会 吉田病院 耳鼻咽喉科(新潟県) 田中 久夫

高齢者の中には原疾患に関わらずフレイルを伴う症例が認められる。フレイルの存在はQOLだけでなく原疾患の治療に対しても影響を及ぼし、予後を悪化させる可能性があることから、早期に介入することが求められる。今回、冷えを伴う患者に対し従来治療に加え人參養榮湯を投与したところ、手足の冷えのほか、便通の改善や原疾患のコントロール、また長期の服用により歩行能力など身体的フレイルの改善が認められた。

**Keywords** 人參養榮湯、冷え、長期投与、歩行能力、身体的フレイル

## はじめに

日本は長寿国として知られる一方で、平均寿命と健康寿命には男女ともに約10年の開きがあり、健康寿命の延伸は重要な課題の一つとなっている。フレイルは要介護状態の前段階で、QOLの低下や様々な疾患における合併症のリスク因子となるが、適切な介入により健常な状態に回復し、健康寿命を延伸する可能性がある。人參養榮湯はフレイルへの介入手段の一つとして注目されており、高齢者の身体的フレイルに対する報告が散見されている<sup>1-4)</sup>。

今回、身体的フレイルを伴う耳鼻咽喉科領域の高齢者患者に対し人參養榮湯を投与したところ、手足の冷えや便通の改善、原疾患のコントロールに加え、長期服用による歩行能力などの身体的フレイルの改善が認められたので報告する。

## 症例1 73歳 女性

3年前から、冷えを伴うめまいに対しベタヒスチンメシル酸塩錠12mg×3錠/日とクラシエ人參養榮湯エキス細粒7.5g/日を服用し経過は良好だった。めまいはコントロールされていたため投薬を中止しようとしたところ、人參養榮湯を服用してから手足の冷えや便秘が改善して調子が良いので、漢方薬は続けたいとの希望があり3年間投薬を続けていた。また、服用以前は2歳年下の妹より病弱で歩行速度や距離も劣っていたが、人參養榮湯の服用により3年後の現在では、妹より体調を崩す頻度が少なくなり、歩行速度は速く、歩行時間も長くなった。筋力も妹より強くなり、家事などの仕事も3年前より多くできるようになった。

## 症例2 65歳 女性

他施設で入院や点滴を繰り返していたが、めまい発作が

改善しなかった。4年前から、冷えを伴うめまいに対してベタヒスチンメシル酸塩錠12mg×3錠/日とクラシエ人參養榮湯エキス細粒7.5g/日の服用を開始したところ、めまい発作が消失した。手足の冷えや便通の改善、歩行速度や時間の改善も認められた。また糖尿病を合併しており年齢より老けた感じだったが、服用後、本人の話では体が丈夫になり、老化の進行も緩やかになった感じがあるとのことだった。治療中の糖尿病は内科医が驚くほどコントロールが良くなり、非常に感謝され現在に至っている。

## 症例3 68歳 男性

梨状陥凹型下咽頭癌のステージⅢにて、化学放射線療法をかなりがっちり行いコントロールされていたが、体力の低下や手足の冷え、筋力の低下、歩行速度や時間の悪化などがあり、本人や家人からの要望にてクラシエ人參養榮湯エキス細粒7.5g/日を処方した。服用後、早期に手足の冷えが改善し、便通も改善した。さらに処方を経たところ、3ヵ月から半年程度で筋力が戻り、歩行速度や時間の改善、QOLの上昇が認められた。5年後の現在においても癌の再発は認められず、日常生活も癌になる以前の程度にまで回復した。

治療期間中、いずれの症例も本剤による有害事象は認められなかった。

## 考察

フレイルは加齢により心身の活力が低下した状態を示し、65歳以上の8.7%がフレイル、40.8%がプレフレイルに該当する<sup>5)</sup>。特に女性、高齢、社会経済的状態が低い、健康状態が悪いほどフレイルの割合が高い傾向がある<sup>5)</sup>。

様々な疾患との関連性も指摘されており、耳鼻咽喉科領域では聴覚障害や平衡障害、嗅覚障害などが活動度の減少や体重減少を介してフレイルに進展することが推測される<sup>6)</sup>。特に平衡覚は姿勢維持や歩行能力に関わっているため、これらの機能が低下するとふらつきや転倒のリスクが上昇し、高齢者の場合、転倒による骨折から寝たきりになる恐れがある。フレイルは寝たきりの前段階であり可逆的な状態であることから、フレイル状態において適切に介入することにより、QOLの維持や健康寿命の延伸が期待できる。

症例1、2はめまいに対する従来治療に加え人參養栄湯を投与したところ冷えや便通、めまいの改善に続き、3~4年後には歩行能力などの身体的フレイルの改善が認められた。めまいの改善により活動度が増加したことが身体的フレイルの改善につながった要因の一つとして考えられるが、平衡障害を伴わない症例3においても人參養栄湯投与3~6ヵ月後に身体的フレイルの改善が認められたことから、骨格筋に対する直接的な作用も考えられる。人參養栄湯は筋タンパク質合成因子である4E-BP1の発現促進および分解に関与するAtrogin-1、MuRF-1の発現抑制による筋萎縮改善作用が示唆されており<sup>7)</sup>、高齢者の身体的フレイルに対して応用されている。青山は体力低下または疲労倦怠を訴え、骨格筋率が標準未満の50歳以上の肥満患者において、骨格筋率およびロコモ度テストの有意な回復を認めたと報告している<sup>2)</sup>。寺山らは脳卒中発症後3ヵ月以上経過した高齢者を対象とした後方視的研究において、転倒回数の有意な減少が認められたと報告している<sup>3)</sup>。また香山らはリハビリテーション利用中でサルコペニア疑いの高齢者に対し、下肢筋力やバランス能力が維持できたと報告している<sup>4)</sup>。

また症例2は糖尿病のコントロールも良好となった。これまでも人參養栄湯投与中に血糖値等が改善した症例をいくつか経験していることから、人參養栄湯による作用と考える。作用機序として筋力の回復や循環改善による体温上昇などが代謝を亢進したと推察する。また最近の報告ではインスリン抵抗性改善作用<sup>8)</sup>や耐糖能改善作用<sup>9)</sup>が示唆されている。しかしながら糖尿病を対象とする臨床報告は認められず、今後、症例数を増やした検討が望まれる。

安全性について、今回の症例はいずれも65歳以上の高齢者で3年以上の長期服用であったが、胃腸障害を含め人參養栄湯による有害事象は認められなかった。人參養栄湯は甘草による低カリウム血症や地黄・当帰による消化器症

状、そのほか肝機能障害などの副作用が懸念されるが、筆者は特に胃腸障害を目にすることが多い。人參養栄湯による胃腸障害は生薬によるもののほか、人參養栄湯が持つ循環改善作用により体が温まり消化管の動きが活発になることも一因と考えられる。実際、3例とも便通の改善が認められたことから、冷えのほか便通を使用目標に加えることも一考に値する。

以上のことから、人參養栄湯の長期投与は歩行機能などの身体的フレイルに対する介入手段の一つとなり、QOLの維持や健康寿命の延伸が期待できる。

(厚生連長岡中央総合病院で経験した症例を供覧した)

#### 【参考文献】

- 1) Sakisaka N. et al.: A Clinical Study of Ninjin'yoeito With Regard to Frailty. *Frontiers in Nutrition*. 5: 1-5. 2018
- 2) 青山重雄: 骨格筋率低下を伴う体力低下に対する人參養栄湯の効果. *phil漢方* 70: 12-14, 2018
- 3) 寺山靖夫 ほか: 高齢者の転倒に対する人參養栄湯の後方視的研究. *phil漢方* 78: 16-19, 2019
- 4) 香山恭範 ほか: 高齢者のリハビリテーションにおける人參養栄湯の効果. *phil漢方* 78: 26-27, 2019
- 5) Murayama H. et al.: National prevalence of frailty in the older Japanese population: Findings from a nationally representative survey. *Archives of Gerontology and Geriatrics*. 91. 2020.
- 6) 荒井秀典 ほか: フレイルハンドブック. (株)ライフ・サイエンス, 第1版: 88-90, 2016
- 7) 高橋隆二 ほか: 人參養栄湯のマウス生存期間および老化表現型への影響. *日本心療内科学会誌* 22: 16-19, 2018
- 8) Hosogi S. et al.: Improvement of Diabetes Mellitus Symptoms by Intake of Ninjin'yoeito. *Frontiers in Nutrition* 5: 1-8, 2018
- 9) Lei Zhang. et al.: Ninjin'yoeito, a herbal medicine, enhances glucose tolerance in mice *Neuropeptides* 88, 102150, 2021